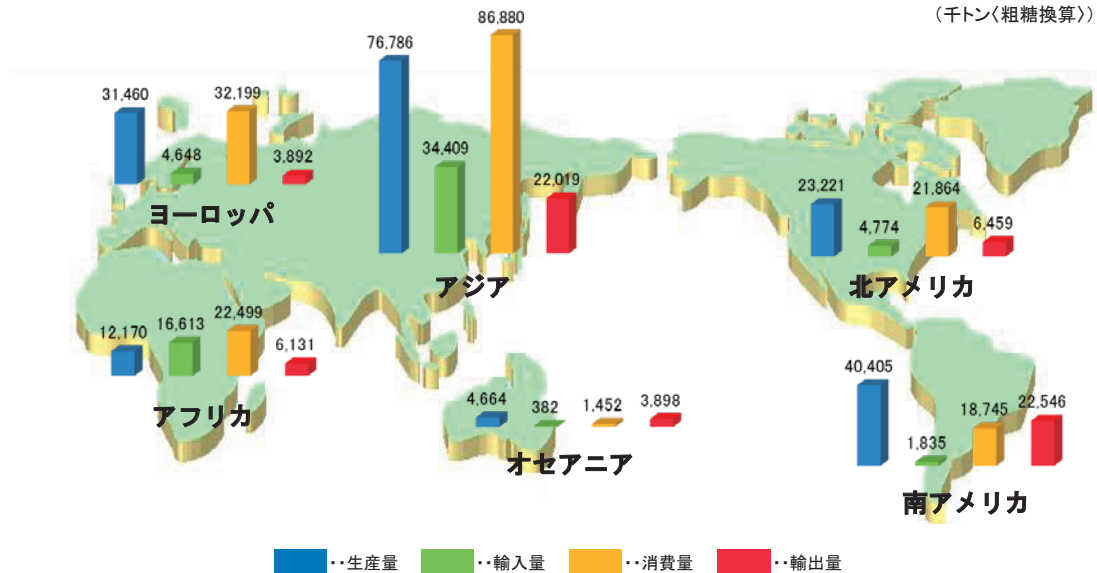


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給 (2019年3月時点予測)

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給 (2018/19年度予測値)



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,122	160,315	56,023	164,767	56,244	50,449	30.6
2013/14	63,423	184,058	58,323	175,184	61,044	69,576	39.7
2014/15	69,576	183,717	59,707	176,521	62,081	74,397	42.1
2015/16	74,397	175,955	67,776	179,670	69,077	69,382	38.6
2016/17	69,382	180,614	70,844	181,854	71,080	67,907	37.3
2017/18	67,907	195,323	66,038	181,456	68,064	79,748	43.9
2018/19 (2018年12月予測)	78,507	185,027	62,152	184,888	63,394	77,404	41.9
2018/19 (2019年3月予測)	79,748	188,706	62,662	183,289	64,945	82,882	45.2

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001940.html

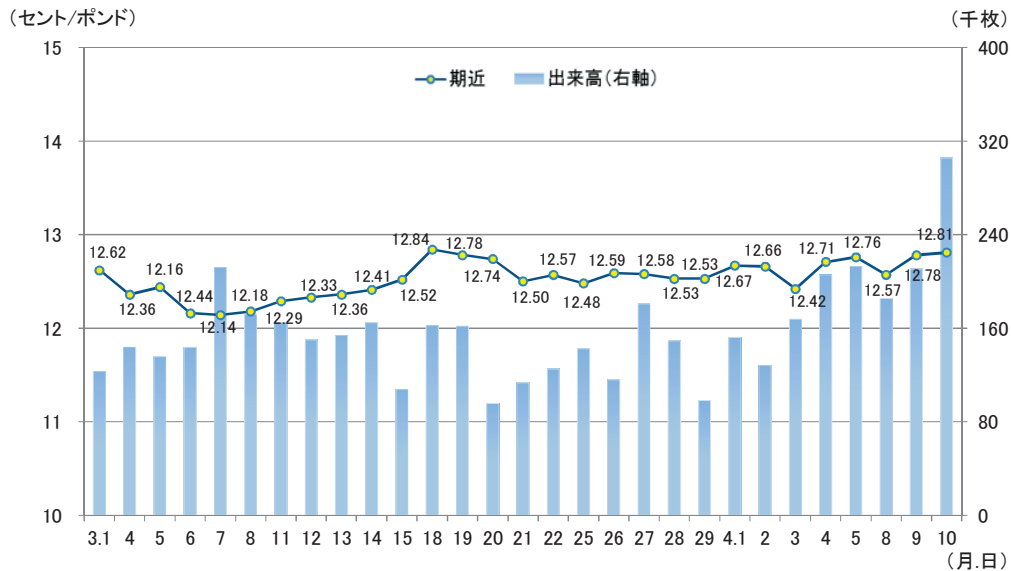
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001939.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（3/1～4/10）

～3月上旬は12.1セント台まで下落したが、3月後半以降はおおむね12.5セント以上で推移～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（5月限）^{がつぎり}2019年3月の推移を見ると、ブラジルの天候が回復し、サトウキビが順調に生育していることから、1日は1ポンド当たり12.62セント（注1）の値をつけた。その後は、目立った材料がない中じりじりと値を下げる展開となり、7日には同12.14セントまで下落した。8日以降は、サウジアラビアやベネズエラが原油供給を引き締めるとの観測から原油相場が上昇（注2）したことや、中国、バングラデシュ、イランにおいて砂糖輸入量が増加するとの見方が相場を支え、15日は同12.52セントまで値を戻した。週明けの18日は、さらに続伸し、同12.84セントまで値を上げたが、21日はインドにおいて砂糖生産量が増加するとの見方が強まり、同12.50セントまで値を下げた。その後はほぼ横ばいで推移し、29日は同12.53セントとなった。

4月1日は、原油相場の上昇が相場を支え、同

12.67セントの値をつけたものの、3日は、原油価格が2019年に入って初めて高値水準から下落したことが影響し、同12.42セントまで値を下げた。4日は、ブラジルの通貨であるレアルの相場が堅調であることが支援材料となり、同12.71セントまで値を上げた。5日は、原油高の影響を受けて、一時は約2週間ぶりの高値水準まで上昇したものの、最終的に同12.76セントで取引を終えた。8日は同12.57セントまで値を下げたものの、中国や東南アジアの降水量が平年を下回るとの予測が発表されたことを受けて相場はその後上昇し、10日は同12.81セントまで値を上げた。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）原油高によってバイオエタノールの優位性が高まり、サトウキビの主要生産国であるブラジルがサトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが強まることで、砂糖相場が上昇するとされている。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年4月時点予測）

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：875万ha（前年度比0.2%増）

生産量：6億1400万トン（同0.6%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3412万トン（同9.0%増）

輸出量：2324万トン（同13.0%増）

2019/20年度、砂糖生産量および輸出量は かなり増加する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年4月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は875万ヘクタール（前年度比0.2%増）、サトウキビ生産量は6億1400万トン（同0.6%減）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている（表2）。サトウキビをバイオエタノール生産へ仕向ける割合が平年並みに戻ると見込まれることから、砂糖生産量は3412万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同9.0%増）とかなり増加し、これに伴い、輸出量も2324万トン（同13.0%増）とかなりの増加が見込まれている。

国際価格の低迷のあおりを受け、製糖工場の 操業停止が相次ぐ

現地報道によると、2019/20年度に操業を行う予定の製糖工場の総数は、前年度と比べ101少ない343工場になる見通しである。この中には、裁判所に会社再生の手続きを申し立てている48工場と破産手続きを開始している4工場が含まれることから、製糖期が終わる12月ごろまで操業できる製糖工場はさらに少なくなる可能性がある。関係者の間では、砂糖の国際価格の低迷により多くの製糖業

者が採算の悪化した工場を維持できなくなっているという見方が以前からささやかれていたが、今回の報道はそれを裏付けるものとなった。

ブラジル、米国砂糖市場のアクセス拡大を期待

ブラジルのテレザ・クリスチーナ農務相は3月20日、前日にワシントンで行われたトランプ米大統領とブラジルのボルソナロ大統領との初の首脳会談において、2019年8月に期限切れとなるブラジルのエタノールに対する関税^(注)をめぐって踏み込んだ議論は行われなかったことを明らかにした。事務レベルや閣僚レベルで行われた事前調整の段階で、条件面が折り合わなかったという。また、今後のエタノールに対する関税交渉に関して、米国の砂糖市場へのアクセス拡大と結び付けて検討する可能性も示唆した。

(注) ブラジルは、輸入するエタノールに対し、2017年からの2年間の期限付きで年間60万キロリットルの無税の関税割当を設けるとともに、超過した数量に対しては20%の関税を課している。なお、ブラジルは米国産エタノールの最大の輸入国であるため、この措置は米国のエタノール産業に大きな打撃を与えた。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

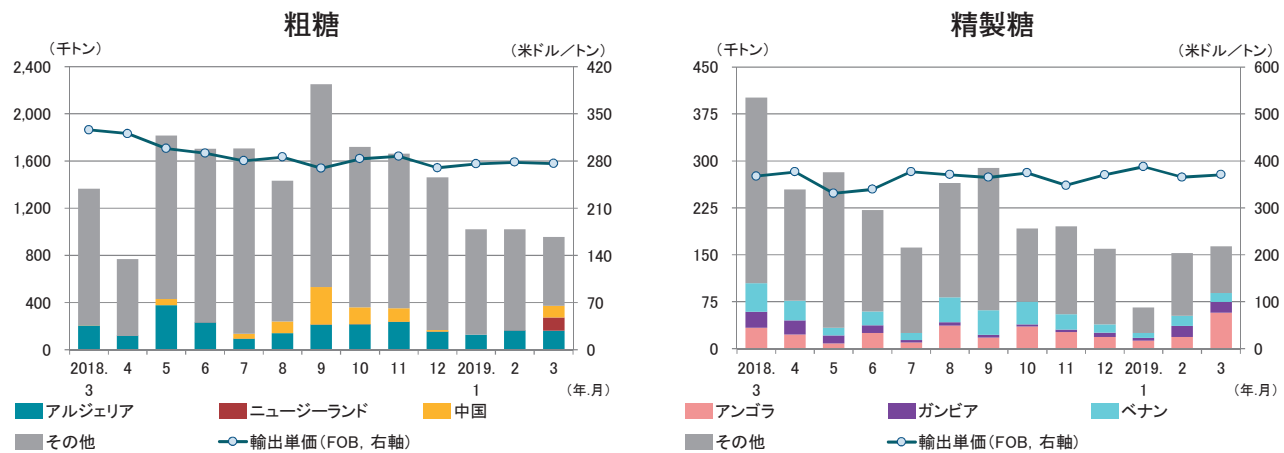
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,488	8,617	8,728	8,748	0.2	
サトウキビ生産量	651,841	641,066	617,500	614,000	▲ 0.6	
砂糖	生産量	41,670	41,490	31,300	34,120	9.0
	輸入量	4	2	3	3	0.0
	消費量	11,275	10,936	10,882	10,882	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,565	23,241	13.0
	期末在庫量	1,022	552	408	408	0.1
	期末在庫率	2.5	1.3	1.3	1.2	0.10 ポイント減

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：503万ha(前年度比4.2%増)

生産量：4億303万トン(同1.5%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3515万トン(同1.2%増)

輸出量：370万トン(同56.6%増)

2018/19年度、砂糖生産量はわずかに増加、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は503万ヘクタール(前年度比4.2%増)とやや増加が見込まれている(表3)。マハラシュトラ州やカルナータカ州において干ばつや害虫の大量発生がサトウキビの生育を停滞させたもの

の、収穫面積の拡大により相殺され、サトウキビ生産量は4億303万トン(同1.5%減)とわずかな減少にとどまり、砂糖生産量は3515万トン(同1.2%増)とわずかに増加すると見込まれている。輸出量は、政府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課すことから、370万トン(同56.6%増)と大幅な増加が見込まれている。

インドの砂糖産業への補助金をめぐり、各国が連携

世界貿易機関（WTO）は3月25日、インドにおける砂糖産業への補助金をめぐり、グアテマラが提訴する手続きに入ったと発表した。インドに対するWTO協定に基づく協議の申し入れは、ブラジル、豪州に次いで今年3例目となる。

WTOの発表によると、グアテマラは、インドの砂糖産業への一連の支援策が「農業生産額の10%を超えて国内助成措置を行ってはならない」と明記

された農業に関する協定第7条第2項に反していると主張している。また、最低輸出枠の確実な履行と引き換えに製糖業者に支給されている補助金が世界での公正な競争を歪めており、WTOのルールに反するとしている。これに対し、インドは「いずれの措置もWTOの下で特定の開発途上国に認められているもの」と反論している。

現地報道によると、EUやタイも同様のWTO協議の申し入れを検討しているとされ、インドに対する包囲網が形成されつつある。

表3 インドの砂糖需給の推移

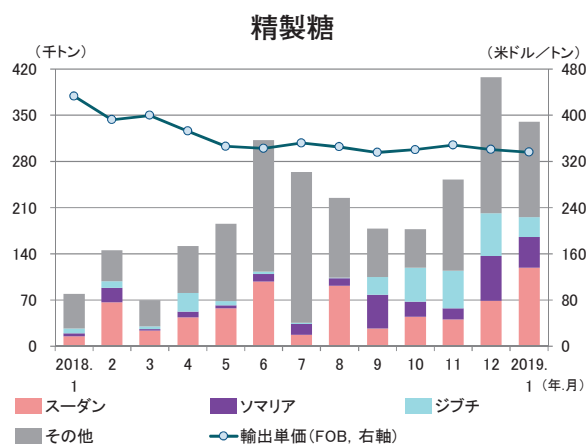
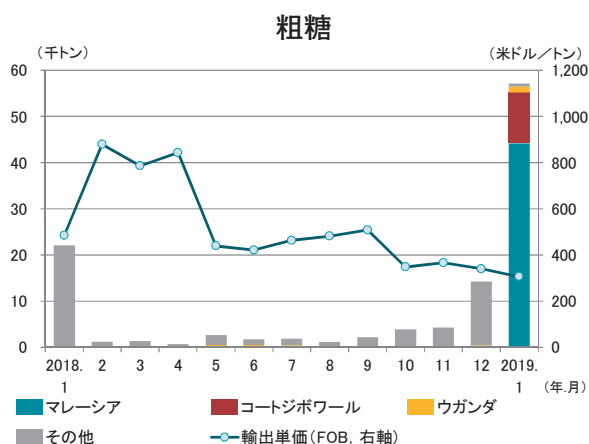
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	2018/19 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,806	4,327	4,830	5,120	5,033	4.2	
サトウキビ生産量	356,871	323,556	409,164	392,430	403,026	▲ 1.5	
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	34,504	35,151	1.2
	輸入量	2,146	2,536	2,306	350	350	▲ 84.8
	消費量	26,784	26,568	26,929	27,460	27,460	2.0
	輸出量	3,955	2,233	2,361	3,320	3,698	56.6
	期末在庫量	8,370	3,952	11,688	15,748	16,032	37.2
	期末在庫率	27.2	13.7	39.9	51.2	51.5	11.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）

生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）

生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1125万トン（同0.9%増）

輸入量：604万トン（同0.4%増）

2018/19年度、砂糖生産量および輸入量はわずかに増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更^{（注）}したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。これにより、原料作物の増産が期待できるものの、天候などの影響で低糖度になるとみられることから、砂糖生産量は1125万トン（同0.9%増）とわずかな増加が見込まれている。輸入量は、2018年10月から翌1月末にかけては前年同月と比べて大幅な増加が見られたが、2月以降の輸入は停滞していることから（後述参照）、604万トン（同0.4%増）とわずかな増加が見込まれている。

（注）政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

2019年2月の砂糖輸入量、過去5年で最低

中国税関総署が3月23日に発表した2019年2月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は、1万トン（前年同月比56.5%減、前月比92.3%減）と過去5年で最低を記録した。一方、2018年10月から翌2月末までの輸入量は、前月まで4カ月連続で前年同月を上回るペースで進捗していたこともあり、99万トン（前年同期比93.0%増）と大幅に増加した。ただし、中国では近年、砂糖需要の高まりに伴い海外からの砂糖の密輸が急増しており、この数量には密輸分が含まれていないため、実際の輸入量はさらに多いと推測される。

これに関連し、ミャンマー商務省は3月、ミャンマー国境周辺で砂糖の密輸が横行していると以前から関係者の間で指摘されていたことを受け、密輸の取り締まり強化の一環として、タイなどから輸入した砂糖を中国に再輸出している103の業者のうち、54者の輸出入許可証の発行を6カ月間停止し、43者を3カ月間の営業停止処分とする決定を下した。

表4 中国の砂糖需給の推移

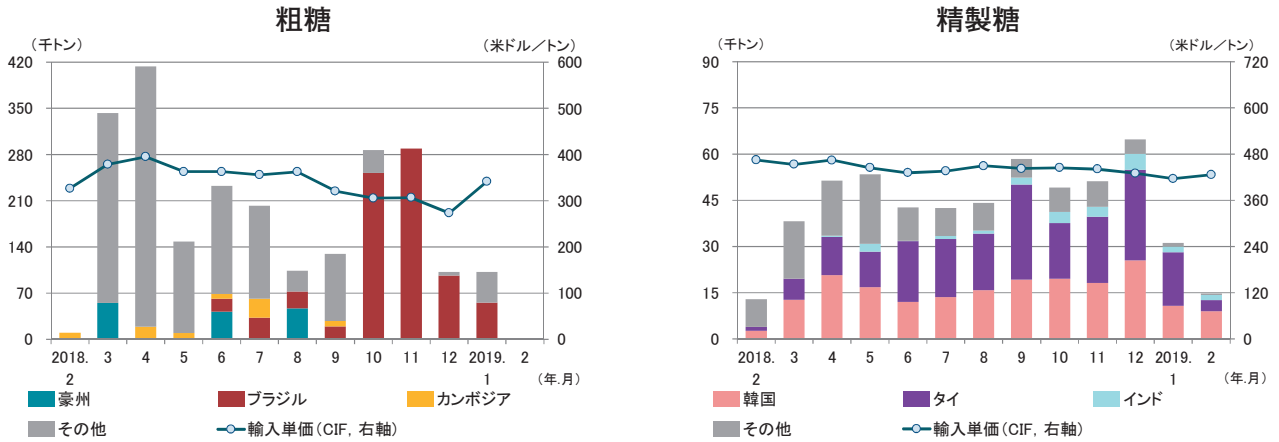
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	2018/19 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,219	1,219	▲ 1.0	
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	78,590	78,590	2.4	
てん菜収穫面積	136	168	186	243	243	30.5	
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,670	11,670	21.7	
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,147	11,276	11,251	0.9
	輸入量	7,910	5,715	6,015	6,036	6,036	0.4
	消費量	16,847	16,847	16,931	17,142	17,142	1.2
	輸出量	181	146	195	174	174	▲ 10.7
	期末在庫量	11,926	10,689	10,724	10,720	10,695	▲ 0.3
	期末在庫率	70.0	62.9	62.6	61.9	61.8	0.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

注2：2019年2月の粗糖は、輸入実績なし。

E U

2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：171万ha(前年度比1.1%減)

生産量：1億1748万トン(同15.1%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1858万トン(同13.7%減)

輸出量：196万トン(同48.6%減)

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少し、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール(前年度比1.1%減)とわずかに減少し、生産量は1億1748万トン(同15.1%減)とかなりの減少が見込まれている(表

5)。てん菜生産量の減少に加え、てん菜の根中糖分が平年を下回るとみられることも影響し、砂糖生産量は1858万トン(同13.7%減)とかなり減少する見込みである。輸出量は、昨年度の豊作時と比較して原料が減産となったことで、196万トン(同48.6%減)と平年並みに戻ると見込まれている。

CIBE、持続可能なてん菜生産の実現に向け提言を発表

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）は3月19日、てん菜生産の持続可能な成長を阻害する規制や政策の見直しなどを求める提言を発表した。これによると、2019年からネオニコチノイド系農薬が禁止されることを念頭に、禁止の決定のプロセスが不透明で客観性に欠けると指摘し、「農薬の使用を規制する場合は、農薬が使用される時期や周囲の環境などさまざまな要素を考慮して評価すべき」とし、環境保護へ傾倒する欧州委員会をけん制した。

また、砂糖の生産割当の廃止により各国で無秩序な砂糖生産が進められた結果、砂糖の国際価格は大幅に下落し、砂糖産業は大きな損害を被ったとして、これ以上の規制緩和をしないよう求めた。加えて、市場開放の重要性について認めながらも、行き過ぎた自由貿易に警鐘を鳴らし、一定の条件下での保護政策が必要であることを訴えた。

CIBEの会長は、プレスリリースの中で「提言の実現に向け欧州委員会や各国政府に働きかけを行い、次世代の生産者が安心して、てん菜を生産し続けられる環境を整えていきたい」と述べた。

表5 EUの砂糖需給の推移

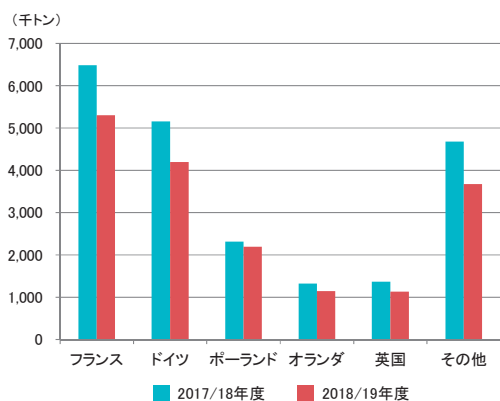
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	2018/19 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,364	1,466	1,732	1,713	1,712	▲ 1.1
てん菜生産量	94,855	107,986	138,438	118,906	117,475	▲ 15.1
砂糖	生産量	14,937	17,069	21,545	18,829	▲ 13.7
	輸入量	3,651	3,117	1,731	2,065	38.1
	消費量	19,481	19,177	19,273	19,021	▲ 1.7
	輸出量	1,501	1,510	3,809	1,794	▲ 48.6
	期末在庫量	1,913	1,413	1,607	1,688	4.4
	期末在庫率	9.1	6.8	7.0	8.1	8.0

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

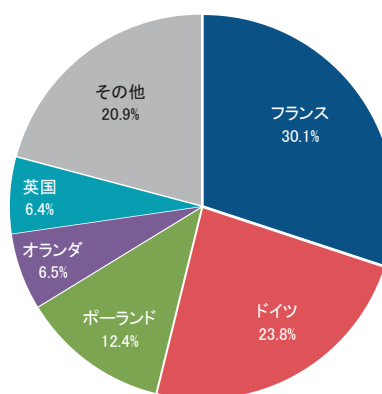
(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年4月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。



資料：欧州委員会

注：2018/19年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2019年4月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカについて報告する。

本稿中の為替レートは2019年3月末日TTS相場の値であり、1タイ・パーツ=3.57円、1南アフリカ・ランド=9.10円、1米ドル=112円（111.99円）である。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度同）

生産量：3281万トン（前年度比1.1%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：446万トン（前年度同）

輸出量：347万トン（前年度比1.6%増）

2019/20年度、砂糖生産量は横ばい、輸出量はわずかに増加の見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移し、生産量は3281万トン（前年度比1.1%増）とわずかな増加が見込まれている（表6）。また、砂糖生産量は、446万トン（前年度同）と横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は347万トン（前年度比1.6%増）とわずかに増加すると見込まれている。しかし、2018年の干ばつや2019年に発生した洪水などの自然災害がサトウキビの生育に及ぼした影響についてはいまだ不明で、影響の全容の把握に今後数カ月はかかるとみられている。このため、各数値は今後下方修正される可能性がある。

2018/19年度の砂糖生産量、約5%増加

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）^{（注）}によると、2018/19年度における豪州の砂糖生産量は、前年度比5.4%増の472万トンとなった。サトウキビの収穫面積は38万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかに増加した一方、干ばつによってサトウキビの生育が抑制され、単収は過去5カ年の最低値である1ヘクタール当たり84.95トンとなった。しかし、CCS（可製糖率：サトウキビのショ糖含有率）については、乾燥した天候が有利に働き、過去9カ年で最高値の14.30%となったことで、2018/19年度の砂糖生産量は前年度と比較してやや増加する結果となった。地域別に見ると、いずれの地域も前年度と比較して砂糖生産量が増加した（表7）。クイーンズランド州バーデキン地方では191万トンが生産され、砂糖生産量の4割を占める結果となった。

（注）豪州の製糖業者が加盟する団体。

表6 豪州の砂糖需給の推移

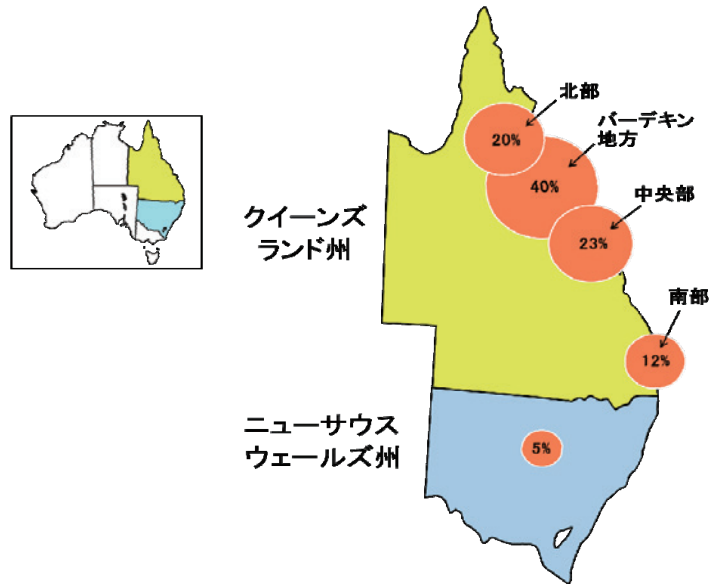
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	368	376	385	385	0.0	
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,465	32,810	1.1	
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,454	4,456	0.0
	輸入量	68	29	29	91	209.8
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,084	1.5
	輸出量	4,004	3,601	3,412	3,467	1.6
	期末在庫量	969	747	751	748	▲ 0.4
	期末在庫率	18.8	15.8	16.8	16.4	0.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

図3 2018/19年度の地域別砂糖生産量の割合



資料：ASMCの資料などを基に農畜産業振興機構作成

表7 2018/19年度の地域別砂糖生産

地域	サトウキビ 収穫面積 (ha)	単収 (t/ha)	サトウキビ 圧搾量 (t)	CCS (%)	砂糖 生産量 (t)	前年度比 (増減率) (%)	
クイーンズ ランド州	バーデキン地方	125,908	101.19	12,741,351	14.72	1,908,359	4.9
	中央部	108,001	68.29	7,375,712	14.28	1,067,205	4.5
	北部	84,263	79.12	6,666,625	14.18	959,771	9.1
	南部	48,298	76.71	3,705,045	14.35	543,511	1.8
	計	366,470	83.20	30,488,733	14.45	4,478,846	5.3
ニューサウスウェールズ州	16,208	124.99	2,003,389	12.03	245,674	8.6	
合計	382,498	84.95	32,492,122	14.30	4,724,520	5.4	

資料：ASMCの資料を基に、農畜産業振興機構作成

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.1%増）
生産量：1億3000万トン（同3.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1512万トン（同3.0%減）
輸出量：1218万トン（同20.9%増）

2018/19年度、砂糖生産量はやや減少する一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.1%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている（表8）。台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受けて、サトウキビ生産量は1億3000万トン（同3.7%減）、砂糖生産量は1512万トン（同3.0%減）とやや減少が見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1218万トン（同20.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

大気汚染対策として、焼き畑による収穫からハーベスタへの転換を推進

サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^{（注1）}は2月13日、全国で深刻化している大気汚染を解消するために砂糖産業の関係団体と会議を開き、焼き畑によって収穫されたサトウキビの割合（現在約70%）を3年以内に5%以下に抑制する方針を決定した。現在、同国では人手不足などを理由に、安

易に焼き畑を選択する生産者が急増しており、焼き畑による煙などが深刻な大気汚染を引き起こしていると指摘されている。サトウキビの主産地の一つである同国北部では、基準値の2～4倍のPM2.5^{（注2）}が検出され、国民からは健康被害などへの影響を懸念する声が上がっていた。

同国政府は、ハーベスタの普及を図るため、60億バーツ（214億2000万円）規模の低利融資制度を2019/20年度から3年間行う計画を発表した。さらに、零細農家を対象に小型ハーベスタを取り扱っている日本の農機具メーカーと協力しながら機械導入を進めたり、農場の大規模化を推進し、大型ハーベスタを導入できる環境を整備したりする予定である。

（注1）サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）の事務局。

（注2）大気中に浮遊している直径2.5 μ m（1 μ mは1mmの1000分の1）以下の小さな粒子を指す。PM2.5は非常に小さい粒子であるため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系や循環器系への悪影響が懸念されている。

表8 タイの砂糖需給の推移

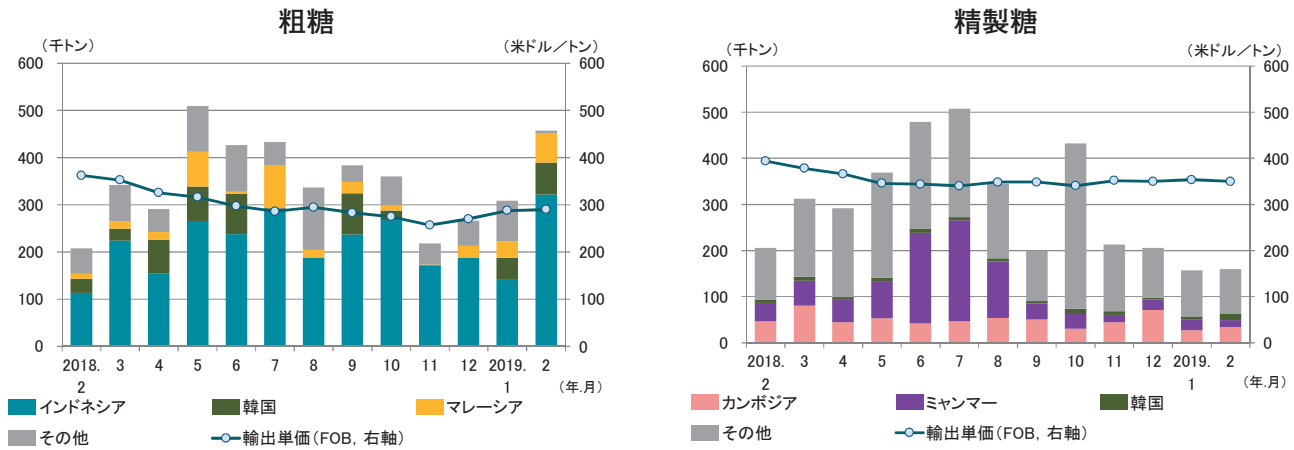
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (3月予測)	2018/19 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,790	1,792	1,792	0.1
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	129,000	130,000	▲ 3.7
砂糖	生産量	10,402	10,657	15,586	14,901	▲ 3.0
	輸入量	1	0	6	3	▲ 48.4
	消費量	3,272	3,283	3,347	3,132	▲ 6.2
	輸出量	7,932	7,393	10,077	12,571	20.9
	期末在庫量	3,970	3,951	6,118	5,325	▲ 3.2
	期末在庫率	35.4	37.0	45.6	33.9	6.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

南アフリカ

2019/20年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：28万ha(前年度比1.4%減)

生産量：1870万トン(同1.7%減)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：234万トン(同0.3%減)

輸出量：91万トン(同9.2%減)

2019/20年度、砂糖生産量はわずかに減少し、輸出量はかなり減少する見込み

2019/20砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は28万ヘクタール(前年度比1.4%減)、生産量は1870万トン(同1.7%減)とわずかに減少すると見込まれている(表9)。砂糖生産量は234万トン(同0.3%減)とわずかに減少して推移すると見込まれるが、輸出量は国際価格の下落によ

り競争力が低下していることから、91万トン(同9.2%減)とかなりの減少が見込まれている。

健康増進税の引き上げ、砂糖産業の労働市場にも打撃をもたらす可能性

南アフリカ財務大臣は2月20日、財政再建に向け増税を柱とする2019/20年度予算案を公表した。増税の対象となる税金には、2018年4月に導

入されたばかりの健康増進税（糖類を含む飲料への課税^(注1)）も含まれ、糖類1グラム当たりの税額が現行2.1セント^(注2)（0.19円）から5%程度引き上げられ、同2.21セント（0.20円）となる。

米国農務省（USDA）は3月13日、南アフリカにおける健康増進税が同国に与える影響を調査した結果を公表した。これによると、砂糖産業の収益が減少することで、多くの雇用機会が失われる可能性があるとの見方を示した。具体的には、健康増進税の導入によって飲料メーカーの砂糖に対する需要が30%減少すると見込まれることから、2018/19年度に製糖業者が本来得られていたはずの砂糖の販売収入の逸失額（逸失利益）は最大で1億2900万米ドル（144億4800万円）に達すると試算した。こ

れに伴い、サトウキビ生産者に分配される収益も減少することから、1万人以上が離農する可能性がある。健康増進税が引き上げられた場合、これらの状況はさらに悪化するだけでなく、飲料の消費が本格的な減少局面を迎えると予想されることから、飲料業界では大規模なリストラを行う可能性が高いと指摘した。

（注1）糖類を含む飲料のうち、100ミリリットル当たり4グラムを超過するものについて、超過分の重量に1グラム当たりの税額を乗じた額を課税する仕組みとなっている。同4グラム以下の糖類を含む飲料は課税の対象外とされている。

（注2）1セントは、1南アフリカ・ランドの100分の1。

表9 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	250	275	280	276	▲ 1.4	
サトウキビ生産量	15,075	17,388	19,032	18,700	▲ 1.7	
砂糖	生産量	1,712	2,158	2,349	2,342	▲ 0.3
	輸入量	963	847	711	701	▲ 1.4
	消費量	2,274	2,304	2,097	2,134	1.8
	輸出量	225	801	999	907	▲ 9.2
	期末在庫量	525	425	388	390	0.5
	期末在庫率	21.0	13.7	12.5	12.8	0.3ポイント増

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2019]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。